

これ以上 住民に負担は…

熊本市南区・安楽寺



間にトイレを増設、2年前には内陣の格天井修復などこつこつと整備を進め、今年の本堂の縁を改修する予定だった。格天井の修復は「住民の負担を減らすため」と東住職の実家の寺院の援助を受け自らが行ったという。

本堂と庫裏の雨漏りを防ぐため、自ら屋根に上りブルーシートも養生した東住職。「解体の費用がかからない方法はないかと行政に問い合わせたが、庫裏も含むすべてを解体しなければ補助金は出ないと言われた」と肩を落とす。「廃寺だけは避けたいが、そうなるってしまうのかという不安を感じた。そんな時、息子がこの状態でも後を継ぐと言ってくれた。何とかしていかないと」と揺れる心境を語った。

東住職は「地震の後、地区の皆さんが心配して見に来てくださった。変わり果てた姿を見ながら『お寺はいるもんなあ』とつぶやかれていた。皆さんもひどい被害を受けておられる。修復費用のお願いは…」と話す。

熊本市南区赤見地区の安楽寺。本堂を正面から見ると、右側に大きく傾いている(写真)。東法雄住職(65)は「この寺院は昔から、宗派を超えて地区住民の皆さんで護持される『地域のお寺』という特殊性があるんです」と語る。

4年前に本堂と庫裏の